

## 第5学年 学年別授業研究会の取り組み

### ☆協議の柱

- 本時目標に沿った児童の思考を促す足場づくりはどうだったか。
- グループ学習後の全体学習のあり方・考え方の取り上げ方はどうだったか。

5年生児童は、本校がグループ学習を取り入れた算数科の授業改善に取り組みはじめたときは、3年生であった。2年間、シナリオ学習やグループ学習に取り組んでいるため、5年生進級の際には、学習展開を理解している児童が多く、グループ学習でも友達同士で意見を積極的に出したり聞いたりすることが抵抗なくできていると感じた。5学年の算数の実践を始めるに当たり、再度他校の授業の様子を視聴し、学習の流れやグループでの発表の仕方、学習中に使いたい言葉「まず〇〇ですね。次に、〇〇です。」「ここまでは、いいですか?」「だれか、つなげてください。」などを児童と確認した。

5年生児童の実態として、学習には意欲的に取り組む児童が多いが、既習事項や下学年での学習内容が十分に理解できていない児童が目立つ。学習の定着を図るためにも、分からないときは「分かりません」「ちょっと自信がないな」など抵抗なく教師や友達に伝え、クラス全体で教え合う雰囲気をつくっていきたいと考える。

学習の流れとしては、①課題提示 ②めあての設定 ③見通しを立てる ④個別思考 ⑤グループ学習 ⑥全体協議 ⑦まとめ ⑧適応題を解く ⑨振り返り を基本としている。

児童の多くは、自分の考えを式や言葉・図でノートに書き、それを積極的にグループの友達に伝えようとしている。一人では、なかなか発表しない児童も、全体協議の際は、グループ毎に協力して発表している。また、友達の考えをしっかりと聞こうとする態度も見られる。

しかし、1つずつの学習過程を丁寧にやっていると1単位時間に収まらないことが多く、適用題や振り返りができないこともたびたびあった。そのため、めあてを授業者が示したり、全体協議で全ての班が発表したりするのではなく、類似した考えが複数見られる場合は、代表となる意見だけを発表させるなどしたりしてきた。

授業時間を意識しすぎるあまり、児童の主体性が損なわれることになっているのではないかと考え、本単元「面積」では、それぞれの学習活動で、できるだけ児童の考えを引きだしながらも、効率良く授業を組み立てていきたいと考えて学習を進めている。

グループ学習後の全体での話し合いにおいて、グループの考えをどのように取り上げるのか、また、児童と授業者の関わり方について重点的に見ていただき、協議していただきたいと考える。